



吉田 直樹 議員

質 問 北斗市における「スマート農業」の普及推進や支援等は

市 長 農業の持続的発展、成長産業化のための施策展開をしたい

問 第2期北斗市まち・ひと・しごと創生総合戦略の「まちをもっと元気にする産業振興」の中の具体的な取り組みで、先端技術や未来技術を活用した産業振興の項目があり、その中で「すでに効果が認められているスマート農業のさらなる普及促進を図る」とあります。

スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のことですが、農業の現場では、人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く、省力化、人手の確保、負担の軽減等が大きな課題となっています。

そこで、農業技術に先端技術を駆使した「スマート農業」を活用することにより、農作業における省力・軽労化をさらに進められることができるとともに、新規就農者の確保や栽培技術力の継承等が期待されています。

北海道内でも普及が進んでおり、スマ

ート農業の導入により、すでに効果が現れている地域もあります。

現時点において、北斗市では近々、普及推進や導入、支援等考えていることがあればお知らせください。

答（市長） 本市では、「米と野菜の複合経営」を推進しており、これまで、農業を営む上で生産基盤となる農地整備事業や施設園芸用ハウス等導入事業などに取り組んでまいりました。

しかしながら、現在の農業を取り巻く情勢は、農家人口の減少、高齢化、労働力不足など、様々な課題を抱えています。これらの課題に対処するために、国ではスマート農業の普及を進めています。

本市においては、市の単独事業である施設園芸用ハウス等導入事業を拡充し、昨年度よりビニールハウスの自動換気装置導入に対する支援を行っています。

スマート農業に係る農業用機械やビニールハウス関連設備の導入には、多額の費用を要することから、今後においても、国や北海道の支援事業の活用をはじめ、本市の施設園芸用ハウス等導入事業で実施している自動換気装置導入支援を継続してまいります。

また、生産者の方々や関係機関と協議した上で、課題解決に向けた新たな支援メニューについても検討してまいります。

現在、直面している高齢化や労働力不

足などの諸課題を解決することが期待できるスマート農業の推進は、本市の基幹産業である農業の持続的発展、成長産業化、また、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる1次産業の高収益化などにつながるものですので、スマート農業の取り組みを進化させる新たな視点から施策展開できるよう関係機関と連携し、農業振興を図ってまいります。

問 現在の北斗市の農業も高齢化による人材不足、後継者や担い手不足等で農地の貸借や売買により、1戸当たりの経営面積が増え、水田や畑は大区画化されてきており、農業機械の自動運転装置等が不可欠だと思うが、今後のスマート農業への取り組みについては。

答（農林課長） 農地の大区画化は市内でも進んでおり、GPS付きの農業機械も導入されてきています。

国の事業を活用した中で、これからも継続した対応をとってまいります。

問 スマート農業はこれからも推進していかねばならない事業です。

GPSだけの農業機械では、自動運転装置等の誤差が大きく生じています。基地局を設置しているところでは、誤差が小さくなるなどの情報もあることから、設置に向けた今後の対応について伺います。

答（農林課長） 農業だけではなく、林業

や様々な産業に活用できるのであれば検証してまいります。



GPSを搭載した防除機

